

財団だより

第156号

2018.12

多摩川



カモ類

冬の野鳥

写真・文 大野 章
(川崎市多摩区在住)



カムリカイツブリ

多摩川の中流域では、冬が一番、野鳥の賑わう季節です。

それは、カモ類を中心に水鳥が多く飛来し滞在するからです。一種類で数十羽から百羽程に及ぶこともあります。常時5～6種類が、冬を通しては十数種が観察できます。

採餌や水浴び、羽繕い等の様子を間近で見ることができ、何かに驚いた時など百羽以上が一斉に飛び立つ様は迫力があります。春の帰還までに、雄鳥が美しさを増す過程も観察できます。

その他、水面には白く優美なカムリカイツブリ、冬の青空を飛翔するユリカモメ等も見られます。

川縁の草木には、小鳥類が到来します。美しい色合いや、それぞれ独特の仕草、可愛い鳴き声で楽しませてくれます。特に色鮮やかなベニマシコは、野鳥ファンの人気を集めています。



ベニマシコ

目次

- 第10回社会貢献学術賞受賞者寄稿……2
- 多摩川散歩……4
- 多摩川に学ぶ……5
- 連載1 アミガサ事件と石原知事の対応…6
- 多摩川改修100年プロジェクト……8
- インフォメ/多摩川……10
- ヘタレサイクリスト 多摩川を下る!…18
- 助成研究募集のご案内……20
- 読者コーナー……22
- 事務局より……23

巻頭言



新たなステージを迎えた水・土砂災害

東京大学名誉教授
第10回とうきゅう環境財団社会貢献学術賞受賞

高橋 裕

わが国は、毎年のように国土を襲う風水害、土砂災害など多様な災害に見舞われてきました。そもそも国土そのものが、自然の猛威によって形成されたと言っても過言ではありません。

私が大学生であった戦後間もなくの頃は、昭和22年のカスリーン台風による関東平野の大水害、24年のキティ台風、25年のジェーン台風、28年の梅雨前線による西日本水害など激しい風水害が立て続けに起きました。私は河川工学者として現場をくまなく歩き、調査することによって、これらの水害の実態とその要因を研究しました。また、昭和30年ごろから都市郊外の開発により生じた新型都市水害について研究し、その対策などを提言しました。

これらの研究によって災害は、自然のみでなく社会との係わりにおいて発生するものであることを強く実感しました。戦後から間もなくは、経済発展とそれに伴う国土開発が水・土砂災害を誘発しました。1950年代から60年代にかけて急速な都市化、高密度の開発によって、都市水害、斜面災害、森林の荒廃、東京湾・伊勢湾・大阪湾近辺でのゼロメートル地帯の出現など、多くの苦い経験を味わってきました。わが国は、これらの災害の経験を踏まえて、国土の安全を確保するために営々と治山・治水事業を行い、加えて流域での対応という総合治水事業を実施し、近年では水害を相当程度減少させることに成功しました。

しかし、近頃再び水・土砂災害が激増していることを実感するようになりました。特に、今年は東海地方から九州にかけて広範囲で水・土砂災害が生じ、地震災害はもとより、国民は連日のように起こる洪水、斜面土砂災害、高潮災害のニュースに耳目を傾け、その対策の必要性を強く感じました。

近年の水・土砂災害増加の要因の一つは、地球温暖化による気候変動がもたらしたものであると考えられます。台風の強大化、豪雨の激化、斜面の深層崩壊の増加、などがデータによって示されています。

しかし、これらの目に見える水・土砂災害はもとより、温暖化による平均海面の着実な上昇にも目を向けておく必要があります。島国であり、臨海部の開発や大河川下流の低平地の人口と資産の集積により経済発展してきたわが国にとって、じわじわと目にははっきりと見えない形で進行する海面上昇は容易ならざる事態であり、気が付いてからの対応では手遅れになりかねません。対策の基本構想・計画を整え、早めに手を打っておく必要があります。

さらに憂慮すべきは、わが国の国土構造と社会構造が変化しつつあることです。少子高齢化の進行と外国人訪問者の激増、大都市の過密と地方の過疎、という社会構造の変化が予想を上回るペースで進行しており、災害の質と量の激変をもたらす可能性が高いと思われます。これらの社会構造の変化への適切な対応策なくしては、国土の災害リスクは急速に増大する恐れがあります。

地球温暖化に対する対策として、温暖化の要因である CO₂ などの排出削減を図る緩和策 (Mitigation) と適応策 (Adaptation) があります。これまで、温暖化対策の中心は緩和策でしたが、今すぐに CO₂ 排出の削減を行っても温暖化の進行は直ちには止まらないことが分かっています。そのため、水・土砂災害、高潮災害などについては、適応策によって被害を減少させるという施策が必要です。つまり、災害に対して強靱で粘り強い治水構造物の構築はもとより、迅速な情報の提供や社会の災害に対する正確な認識、それらに基づく避難、復旧・復興の在り方、災害に脆弱な土地の利用の在り方、水害に強い住宅の建設、など、あらゆる手段を総動員して立ち向かっていく必要があります。

わが国は、水・土砂災害の新たな次元に突入しつつあると言え、これを解決するために政治・行政はもとより、土木技術者をはじめとする研究者・技術者の知恵と存在価値が問われているように思います。



2017年7月 九州北部水害における朝倉市赤谷川の水・土砂災害

昭和28年(1953)の西日本水害では、朝倉付近で筑後川堤防が大破堤した。2017年の災害では未曾有の豪雨により山の斜面が広範囲で崩壊し、流出した土砂によって朝倉川が埋まり、激甚な水・土砂災害を引き起こした。

多摩川散歩

多摩川源流大学から



多摩川源流大学事務局
NPO法人多摩源流こすげ事務局
東京農業大学非常勤講師

石坂 真悟

サウナキャンプ

10月13日土曜日、玉川キャンプ村ではサウナ好きが集まる“熱い”イベントが開催されました。その名も「サウナキャンプフェスティバル」。

最近、雑誌やSNS界限では空前のサウナブームが到来しています。そんなブームの波が小菅村にも届き始めたのが、6月に小菅村中央公民館で開催された「タイニーハウスコンテスト2018」において、サウナキャンプチームが提案した「サウナハウス」が数ある応募作品の中から賞を獲得したことに始まっているようです。そもそも「サウナキャンプ」とはどのようなものかということ、サウナという「施設」をテントで再現し、自然の中でサウナを体験するというキャンプスタイルのことを指します。



サウナハットとロゴ 撮影：土田 凌

そのサウナキャンプユニットが企画したのが、このサウナキャンプフェスで、チケットが応募者多数のため即日完売するほどの大人気となりました。イベント当日は玉川キャンプ村の河川を水風呂とし、河川敷には多数のテントサウナが立ち並び、参加者およびスタッフを至福の時間に導いておりました。



イベント風景 撮影：土田 凌

ここでなぜ私がサウナキャンプをご紹介したかというのも、サウナキャンプと源流域はとて素晴らしい相性で今後の拡がりの可能性を感じたからです。サウナキャンプに

は、熱気を生み出すための「薪ストーブ」、暑くなった体を冷ます「水風呂」、その後 ゆったりと休憩を行う「外気浴」の3つが必須条件となります。この3つを兼ね備えているのがまさに、源流域の「森林資源」「清冽な水」「豊かな自然」なのではないでしょうか。

現在、森林資源の有効活用は声高に叫ばれていますが、「サウナを愉しむ」ためにお金を払い薪を買い、人も森も薪生産者にとっての小さな経済循環を生み出すことが今回のイベントで実現できました。今後も林地残材や間伐材の有効活用を含めながら、源流域でのサウナキャンプの可能性を探っていきたいと思います。



テントサウナと薪

小菅村イベント情報

○「多摩川源流ジャーニー」

2019年3月30日(土) バイカー向けイベント「多摩川源流ジャーニー」開始!

バイク乗りの方々に安全に楽しく多摩川源流域をツーリングして頂くために、多摩川源流ジャーニーを開催します。小菅村隣接自治体と協力しゴールの5月18日(土)までに各地のチェックポイントを巡り、再び小菅村に集合する取り組みを行います。

時間やスピードではなく、源流域の見所や普段は訪れない場所をご紹介してより多摩川源流地域を知っていただくためのイベントとなっています。詳細については、今後特設HPなどでご紹介いたします!

●スタートセレモニー 2019年3月30日(土)

●ゴールセレモニー 2019年5月18日(土)

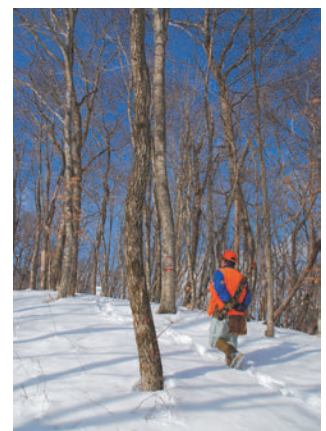
いずれも道の駅こすげにて開催します。

NPOこすげイベント情報

○『猟師さんに聞く! 森林の話・動物の話』

2019年1月27・28日に『猟師さんに聞く! 森林の話・動物の話』を開催します。

この講座では、自然のスペシャリストである村の猟師さんと一緒に森林を歩き、動物たちを観察します。さらに、火おこしやジビエ料理試食など五感を使う体験をしながら、人と森林のつながりについても気づくことができます。



猟師と山歩き

対象：小学校3年生以上

参加費：1泊3食付き 22,000円(税込)

詳細については、下記HPまたは、

(株)源 070-4425-4378 までお問合せください。

<https://ko-kosuge.jp/>

多摩川に学ぶ

次世代につなぐ「どんど焼き」



NPO 法人砧・多摩川あそび村

理事長 上原 幸子

地域で祝う小正月の伝統行事

正月飾りや書き初めなどをお焚き上げする小正月の火祭り「どんど焼き」。その火でお餅を焼いて食べると、1年を無病息災で過ごせると言われる日本古来の伝統ある行事です。歴史的には平安時代の宮中行事が起源とされ、鎌倉時代に庶民を含めた今の形に変化したと言われています。意外にも、元々は子どものお祭りという位置付けだったとのことで、楽しげな名前もその辺りに由来があるのかもしれませんが。とは言え、地域によって名称は様々で、櫓のデザイン、作り方、餅ではなく色とりどりの団子を焼くなど、スタイルにも違いがあります。また、場所も神社ではなく学校や集落単位など、小規模で行っているところも多いようです。

多摩川河川敷のどんど焼き

多摩川流域では、河川敷という立地を活かしたどんど焼きが源流から河口までの各地で行われています。茅となるイネ科の植物が豊富にあり、冬場の枯れ草の処理のためには一石二鳥の側面もあると言えます。



オギの群落での茅束ね作業

きぬたまあそび村(砧・多摩川あそび村の通称)が遊び場づくりをしている「せたがや水辺の楽校原っぱ」でも、地元の鎌田南睦会主催のどんど焼きが行われています。開催日の1週間前には、100名近い人たちが茅となるオギの束を作り、孟宗竹で櫓を組み上げていく作業が早朝から夕方まで行われます。お昼には同会婦人部による具沢山のトン汁が振る舞われ、外作業で冷えた体を温めてくれます。始まりは1989年。お正月飾りがゴミとして捨てられている状況をなんとかしたいという、町会役員の皆さんの思いからだったそうです。何もない河川敷に、10mを越す壮大な櫓が立つ様子は壮観そのもの。どんど焼きなくしては一年が始まらないと言えるほど、地域の大切な行事となり、消防団を始め多くの人の協力で行われて来ましたが、この1月でちょうど30回を迎えるとのこと。



次世代に伝えていきたい櫓作り

多摩川の風物詩として

しかし近年、全国ではやむ無く途絶えてしまうどんど焼きも多いと聞きます。農村では少子高齢化が進むことで櫓の作り手がいなくなり、かつて農村地帯だったエリアも宅地化が進むと茅の材料となる藁の入手がむずかしく、また灰や煙で近隣に迷惑もかかるという理由から継続が困難になっています。ダイオキシン対策など身近な場所から焼却炉や焚火が姿を消し、また家庭では電磁調理器の普及など、現代生活は煙に縁遠くなっているのかもしれませんが。それだけでなく、これまで顔の見える範囲で行えていたことができなくなる傾向にあるように思います。その意味では、人が多い少ないに関わらず、行える場所はさらに限定されていくことでしょうか。反面、惜しむ声があるからこそ、どんど焼きは広範囲から大勢が集う一大イベントに変化し、広々した多摩川周辺ならではの風物詩とも言える存在になりつつあるのかもしれませんが。多摩川流域に住む者としてノウハウを次世代に継承し、多くの人で支えていけるよう協力し合っていきたいと思っています。



祭礼の後に着火



プラスチックなどを取り除いて大きな火を囲むお焚き上げ



多摩川改修 100 年

1. アミガサ事件と石原知事の対応

国土交通省国土技術政策総合研究所
主任指導官、博士(工学) 和田 一範

大正6年(1914年)、第一次世界大戦の中国大陸山東半島におけるドイツ軍との戦いに、日本中が沸いている頃です。

9月16日朝、ちょんぼりがさと呼ばれるアミガサに、野良着姿の村人たち数百名が、神奈川県庁に押しかけました。秋元喜四郎^{たちぼり}橘樹郡郡会議員、深瀬啓十郎日吉村村長、小島晋淵御幸村代理村長、矢島七蔵御幸村村会議長などを代表に、御幸村、日吉村、住吉村、町田村(現在の川崎市中原区、幸区、横浜市港北区、鶴見区)などの住民を中心として、田島村(川崎区大島)などの人もいました。

人々の訴えは、毎年のように起こる多摩川の洪水を防ぐための堤防建設です。

当時、御幸村上平間から中丸子、中原村上丸子の地域は堤防が無く、明治40年(1907年)43

年(1910年)の洪水では、この地域からあふれ出た水が御幸村、住吉村、日吉村、町田村を襲い、鶴見川にまで達したと言われています。この洪水では東京府、神奈川県両岸の堤防もズタズタに切れて、沿川は一面、海に至るまで泥水で浸かって、多くの死者が出ました。

東京府、神奈川県の地域住民は、国の直轄事業による抜本的な改修を希望してきましたが、利根川や信濃川、淀川などもっと大きな河川から事業開始し、多摩川の要望はなかなか通りません。

一方でこれら堤防のない地域では、対岸の東京府側には大きな堤防が何年にも渡ってかさ上げされてきたにもかかわらず、神奈川県側の堤防建設ができないことで、大きな不満を抱えてきました。

明治39年(1906年)制定の旧河川法では、堤

防建設を行う場合、多摩川のように対岸がほかの府県で、対岸に影響がある際には、国の内務省による認可が必要となります。内務省は東京府に意見を聞いて判断しますが、東京府は対岸に堤防ができれば、その分東京府側が危険になりますから、反対します。その結果、内務省は神奈川県に認可を出さない、ということになってしまうのです。

解決のめどが立たないまま、毎年のように洪水被害を受ける地域住民たちは、ついに大きな不満を爆発させ、当時は御法度^{ごはつと}の集団陳情に打って出たのです。

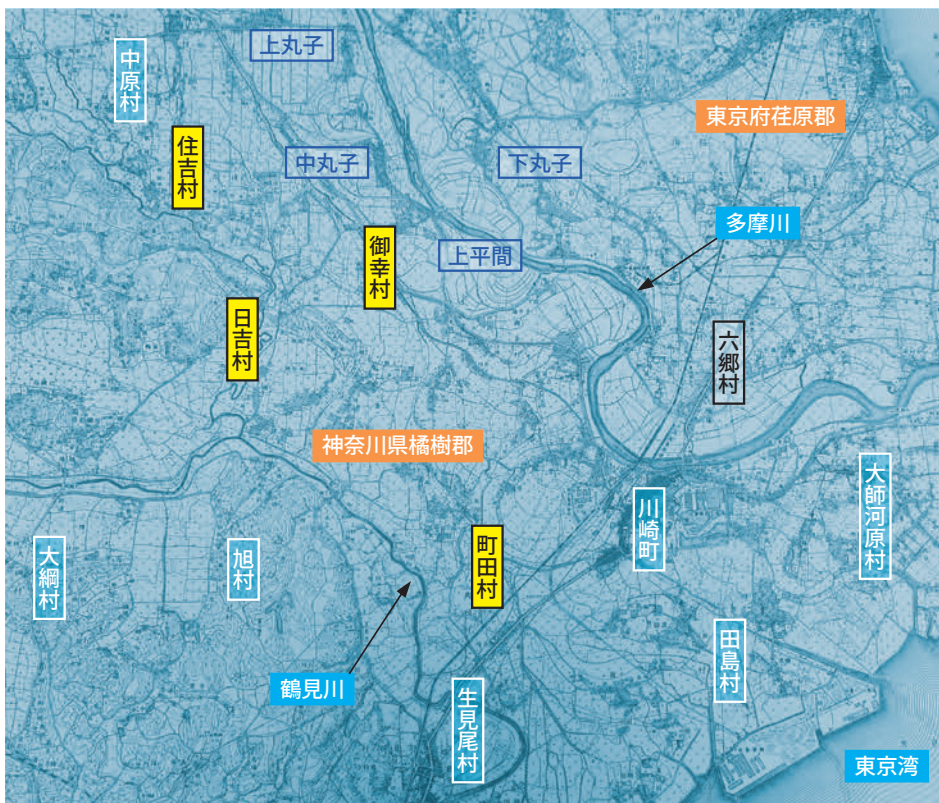


図 橘樹郡と多摩川(大正6年(1917年)2万5千川崎)

急遽かけつけた市村慶三橋樹郡長のあっせんにより、これら一大抗議集団は横浜公園に待機し、代表者 10 名が石原健三神奈川県知事、青木土木課長等と会談をします。

この会談の様子は多くの新聞記事になっていますが、いずれも、

- ・この問題は数年来の懸案で、知事自身も就任日が浅いが、治水の重要性は考慮している
- ・被害については充分同情すべきもので、県としても堤防建設の必要性を認め調査を進めており、早晚解決をさせてゆきたい
- ・内務省との関係もあって具体的な対応を明言することはできないが、県としてできる限りの対応をしてゆく
- ・大挙陳情のような不穏当な行動は遺憾であるというような、概ね前向きな答弁であったことが報じられています。

しかし、もっと具体的な回答を期待していた横浜公園の数百名には、それがうまく伝わらず、大きく落胆して帰途に着きました。

ただしこのときの会談は非常に有効で、早速、地域住民の代表者たちは、多摩川改修問題の解決に向けて、目覚ましい運動展開を進めてゆくのです。

3日後の9月19日、橋樹郡11ヶ町村の代表が川崎町の橋樹郡役所に集まり、9月29日に多摩川築堤期成同盟会が結成。10月29日にはキーパーソンの内務大臣に宛てて陳情書が提出されます。また10月12日には石原知事、土木課長が無堤地区を視察しています。さらに12月3日県議



写真 アミガサ事件百年の碑（集結の地上平間八幡神社境内）
アミガサ事件100年の会現地見学会（2018年3月4日）、
のぼりを持つのは会長織戸氏、右端は筆者

会郡部会で多摩川築堤建議が可決します。

このときの石原知事の対応は、その後、

- ・けんもほろろ、いきなり怒鳴りつけた
- ・従来の説明の繰り返し
- ・話を十分に聞かないうちに退室してしまったなど、否定的なものとして伝えられてきました。実は、戦前の公的な書物、川崎誌考（昭和2年（1927年）刊）、稲毛川崎貳カ領用水事績（昭和5年（1930年）刊）、川崎市史（昭和13年（1938年）刊）などでは、アミガサ事件と有吉堤のはなしはまったく扱われていません。

戦後になってまとめられた、川崎市史（昭和43年（1968年）刊）では、

- ・知事はきわめて高圧的態度であったが、これにもひるまずこもごも立って被害の状況を訴えたが、責任ある回答を得ないまま知事は退席してしまった。・・

などかなり否定的な内容になっています。

これらは、戦前の体制下、一連の事件がいわば御上おかみに逆らうものとして口外御法度のような扱いを受けてきた一方で、人々は、横浜公園に待機させられた数百名の村人が見たことを口伝えに語り継いでゆくうちに、内務省からの中止命令を無視して堤防建設を進めた有吉忠一知事を英雄視する半面、任期中には具体的な堤防工事に至らなかった石原知事を悪代官役に仕立てる図式で、尾ひれがついたものと想像されます。

アミガサ事件が語られるとき、洪水中の鶴見川末吉橋をふんどし一丁になってずぶぬれで渡るシーンが、妙な臨場感を持って伝えられますが、これは御幸尋常高等小学校の郷土史（昭和8年（1933年）刊）の一節で、事件の後20年を経て人々に語られていたものです。事件そのものの本質とはちょっと離れたエピソードですが、石原知事と会談をした10名とは別の、横浜公園に待機させられた数百名の村人が伝え、語り継がれたこととしては、頷けるものがあります。

いずれにせよ、いよいよ事態はこれから、大きなドラマの第2幕に突入してゆくのです。

多摩川改修100年プロジェクト

平成30年は、多摩川改修百年です

1918（大正7）年に国直轄の多摩川改修事業が始まり、今年で100年の節目を迎えます。

そこで、あらためて多摩川の治水の歴史を振り返り、これからもっと多摩川を知っていた
 だき、より良い多摩川を目指すため、多摩川流域の自治体のご協力を得ながら、「多摩川改修
 100年プロジェクト」として各種イベントを開催していきます。

エクスカーションツアーを開催

エクスカーションツアーは、多摩川改修100年プロジェクトの1つとして、多摩川にまつわ
 る史跡などを巡り、訪れた場所で案内人の解説に耳を傾けながら、参加者も現地での体験や議
 論を行い社会資本に対する理解を深めていく「体験型の見学会」です。

【第1弾】9月16日：アミガサ事件を巡るツアー

国直轄の河川改修事業が始まるきっかけとなった「アミガサ事件」にまつわる史跡等を巡りました。



八幡大神 アミガサ事件百年の碑前



有吉堤前

【第2弾】11月10日：砂利鉄道の歴史を辿るツアー

多摩川での砂利採取が全面的に禁止となる1965（昭和40）年まで、
 砂利運搬を主目的として運行されていた「砂利鉄道」の歴史を辿りました。



下河原線広場公園



多摩川改修100年
 京浜河川事務所HP



国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所

多摩川改修100年プロジェクト

多摩川改修100年プロジェクト

- ▶平成30年5月14日（月）
『多摩川改修100年発足式典』開催
- ▶平成30年7月23日（月）
『多摩川改修100年パネルリレー出発式』開催
- ▶平成30年7月23日～平成31年2月21日 **実施中**
『多摩川流域市区町村によるパネルリレー』実施
- ▶平成30年9月～平成31年1月
『エクスカーションツアー』実施
【第1弾】9月16日：アミガサ事件を巡るツアー
【第2弾】11月10日：砂利鉄道の歴史を巡るツアー
【第3弾】1月19日：河口域を巡る船上ツアー **実施予定**
- ▶平成31年3月2日（土） **多摩川改修100年メインイベント！**
『多摩川を歌う』多摩川が歌詞に入っている校歌等を小学生が歌う合唱コンクール及びパネルディスカッション



多摩市役所パネル展示
(10/15～10/26)



羽村市役所パネル展示
(10/29～11/9)

各イベントの詳細については、
京浜河川事務所HPをご確認下さい。
(順次更新していきます。)



イメージ
キャラクター

百川多摩

京浜河川事務所
Facebook



京浜河川事務所ではFacebookを公開しています！

<https://www.facebook.com/keihin.river.mlit/>

京浜河川事務所の取り組みや所管する多摩川、鶴見川、相模川、西湘海岸、沖ノ鳥島に関する情報を、みなさんに分かりやすく発信していきます。多摩川改修100年の情報も発信します！

国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所



インフォメ／多摩川

多摩川流域他の各種団体等の12月から2019年3月に開催される環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

美しい多摩川フォーラム

■第11回多摩川子ども環境シンポジウムを開催

日 時：12月8日(土) 14時～16時半

場 所：フォレスト・イン昭和館(東京都昭島市昭和の森)

■お問い合わせ先

美しい多摩川フォーラム事務局(青梅信用金庫 地域貢献部内)

担当：及川/木村/鈴木

TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4650

E-mail forum@tama-river.jp URL <http://tama-river.jp>

一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

■早春のバードウォッチング ～多摩川・兵庫島公園周辺

○2月23日(土) 午前9時30分～正午頃 ※要申込

■早春のみつ池体験教室～成城みつ池緑地

○3月23日(土) 午前10時～午後2時 ※要申込

■世田谷トラストまちづくりビジターセンター ～世田谷区成城4-29-1(野川沿い)

※開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：月曜および年末年始(12/29-1/3)

*「身近な自然と触れ合うミニイベント」

1月13日(日)、2月10日(日)、3月10日(日)

※要申込 / tel.03-3789-6111 (1月以降のミニイベントは12月中旬から申込受付をします。)

*「みどりの上映会」

毎週土曜日の午前10時～正午、午後1時30分～3時30分 随時・申込不要

■申込・お問い合わせ先

(一財) 世田谷トラストまちづくり トラストみどり課

TEL 03-6379-1624 FAX 03-6379-4233

〒156-0043 世田谷区松原6-3-5

財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

むさしの化石塾 = 多摩川の化石を教材にした環境教育学習教室です =

■室内ワークショップ（多摩川の第四紀学に関する調べ学習会）

参加人数：1回 10名限定 参加費：1000円

開催日時： 1/19（土）化石の調べ学習
2/9（土）化石の調べ学習
3/9（土）化石の調べ学習

開催場所：〒208-0003 東京都武蔵村山市中央 3-20-7 むさしの化石塾 室内

※日程は変わることがあります。

■化石採集野外体験会（1～3月）オプションイベントになります。

※参加費：2000円（資料代込み）（別途化石塾ニュース等でご案内します。）

★公開イベント 親子参加者・研究発表会（パネルディスカッション）

2019年2月16日（土曜）昭島市内の公共施設を予定（詳細は別途化石塾ニュース等でご案内します。）
仮称テーマ「アキシマクジラが見つかった多摩川で新種を探そう！化石採集会で見えてきた古環境」
参加希望者はむさしの化石塾までご応募ください。

★各種イベント申し込み方法

※事前にメールでのお申し込みをお願いいたします。

参加メールには、参加希望イベントを件名をお願いします。



- (1) 参加希望日
- (2) 参加者氏名
- (3) 性別・年齢又は学年
- (4) 所属先
- (5) ご住所連絡先
- (6) 電話番号、メールアドレス、webアドレス等
- (7) 緊急連絡先（スマホ、携帯端末）

※個人情報の取り扱いは十分に注意いたします。

連絡先：むさしの化石塾メールアドレス

geo@extra.ocn.ne.jp まで、ご送信をお願いします。

■お問い合わせ先

GeoWonder 企画 むさしの化石塾

〒208-0003 東京都武蔵村山市中央 3-20-7 MKJ 事務所

むさしの化石館 042-567-1095 (FAX)

MAIL geo@extra.ocn.ne.jp

むさしの化石塾 代表 福嶋 徹



川崎市水辺の楽校

■川崎市域水辺の楽校の楽校開催予定

かわさき水辺の楽校	だいし水辺の楽校	とどろき水辺の楽校
12月15日(土) 多摩区の外遊び 10:00～14:00 生田小学校下校庭	12月22日(土) クズあみ教室 13:00～15:00 干潟館と周辺	12月23日(祝/日) 野鳥観察会 10:00～12:00 多摩川とどろき河川敷
1月14日(祝/月) 凧作り・凧揚げ大会 (多摩区と合同) + どんど焼き 10:00～13:00 ニヶ領せせらぎ館周辺	1月19日(土) 凧つくり教室 13:00～15:00 水防センター周辺	1月13日(日) 多摩川凧揚げと雑煮大会 10:00～13:00 多摩川とどろき河川敷
2月16日(土) 野鳥観察会 10:00～12:00 せせらぎ館集合 登戸周辺で観察会	2月9日(土) 凧つくり教室 10:00～12:00 水防センター周辺	2月17日(日) 多摩川水辺の楽校 シンポジウム川崎 三校合同 13:00～16:30 川崎市総合福祉センター エポックなかはら
2月17日(日) 多摩川水辺の楽校 シンポジウム川崎 三校合同 13:00～16:30 川崎市総合福祉センター エポックなかはら	2月17日(日) 多摩川水辺の楽校 シンポジウム川崎 三校合同 13:00～16:30 川崎市総合福祉センター エポックなかはら	3月24日(日) 多摩川クリーンアップ・ 焼き芋大会 12:00～15:30 二子神社境内他
	3月23日(土) 自然観察会 10:00～12:00 水防センター周辺	

■お問い合わせ先

NPO 法人 とどろき水辺の楽校

理事・事務局 鈴木眞智子

〒212-0004 川崎市幸区小向西町三丁目64

電話 044-201-1493 携帯 090-5814-9604

Eメール info@todoroki.org <http://www.todoroki.org>

みずとみどり研究会

■第16回身近な水環境の全国一斉調査のお知らせ

日 時 2019年6月2日(日) ※世界環境デー(毎年6月5日)

測定項目 気温、水温、COD、その他(任意)

測定方法 取扱説明書にもとづき、調査キットで測定

(参加申込者に2019年4月末～5月頃に配布予定)

参加申込 同封の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の事務局

と締切り (みずとみどり研究会) に、2019年3月10日(日)までに必ずご送付下さい。

【なお、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。】

申込受付 参加申込された団体はホームページ等で公表させていただきます。

お申込み・お問合せ先 事務局 全国水環境マップ実行委員会

みずとみどり研究会気付

〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202

TEL/FAX 042-327-3169 E-MAIL mizutomidoriken@ybb.ne.jp

URL <http://www.japan-mizumap.org>

■第2回多摩川流域歴史シンポジウムの開催のお知らせ

日 時 2019年2月9日(日) 13時～ (受付開始 12時30分)

場 所 狛江中央公民館 (小田急線「狛江駅」北口から徒歩5分)

内 容 シンポジウム「多摩川流域の中近世を語る」

～これまで4回にわたり実施してきた中近世シリーズのまとめとして～

多摩川と人間との関わりの歴史を掘り起こし、多摩川らしさとして地域文化を再発見することを目的としてこれまで4回にわたり「中近世」をテーマに多摩川流域歴史セミナーを開催してきました。

中近世の締めくくりとして、第2回多摩川流域歴史シンポジウムを開催いたします。

登壇予定者： 小野 一之氏(府中市郷土の森博物館館長)

橋場 万里子氏(多摩市文化振興財団学芸員)

岩橋 清美氏(国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター特任准教授)、

望月 一樹氏(神奈川県立歴史博物館学芸部長)

小田 静夫氏(東京大学総合研究博物館 研究事業協力者) ほか

参加費：無料

詳細：国土交通省京浜河川事務所ホームページ

http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin_index116.html

または多摩川流域懇談会公式 Facebook <https://www.facebook.com/tamaryukon>

(Facebookは「多摩川流域懇談会」で検索)

主催：多摩川流域懇談会(市民(団体)・多摩川流域の自治体・河川管理者など)

■お問い合わせ事務局

多摩川流域懇談会事務局 みずとみどり研究会

連絡先：TEL/FAX 042-327-3169 E-MAIL mizutomidoriken@ybb.ne.jp

詳細が決まりましたらフェイスブック等でお知らせします。

森林総合研究所 多摩森林科学園

■森林講座

講座開催日	講座タイトル
12月 8日 (土曜日)	森林は二酸化炭素を吸っている？吐いている？
2月 15日 (金曜日)	樹木もストレスを受ける!?
3月 16日 (土曜日)	災害調査に使われる最新技術

会 場：多摩森林科学園 森の科学館

時 間：各講座とも 13時 15分～ 15時

受講料：無料（ただし、入園料として大人 300円、子供 50円必要となります。）

お申込：お申込の受付は各講座開催日の前月の 1日からいたします。

（例） 5月 9日の森林講座の受付は、4月 1日到着分から

受付は先着順で定員に達したら締切となります。定員に達しない時でも講座開催日の 1週間前が締切となります。応募受付の回答は、先着順で順次お知らせします。

往復はがき、または電子メール shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp で承ります。

ご希望の講座名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加希望者数をご記入の上、お申込ください。

なお、それぞれのお申込 1通に対し、1講座 3名までの受付とさせていただきます。

※ご提供いただいた個人情報は、森林講座の連絡にのみ使用させていただきます。

■お問い合わせ先

多摩森林科学園 〒193-0843 東京都八王子市廿里町 1833-81

TEL 042-661-1121 Email shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp

アミガサ事件 100年の会

■有吉堤、多摩川対岸から眺める現地歩こう会

日 時：3月 17日 (日) 集合 午前 9時半 (小雨決行)

集合場所：東急多摩川線 下丸子駅前 (蒲田行き改札口側)

コース：下丸子駅前→多摩川旧河道と光明寺池→多摩川締め切り堤跡→峯村の突堤跡→
有吉堤 (対岸から) →平間の渡し下流 150 間の突堤跡 (対岸から) →
多摩川旧河道と矢口渡→十騎神社→新田神社→頓兵衛地蔵→武蔵新田駅 (解散)

所要時間：約 2 時間 (その日の状況によりコース及び時間は多少変動することがあります。)

案 内：和田 一範 氏

国土交通省国土技術政策総合研究所 主任指導官博士 (工学)

定 員：30 名 (先着順)

参加費：無 料 参加申し込みは、FAX 又は お電話でお願いいたします。

(FAX でお申し込みの際は お名前・連絡先・参加人数をご記入ください。)

■お問い合わせ先

アミガサ事件 100年の会 会長 織戸 美紀世

TEL 080-9572-7479 FAX 044-511-1812



NPO 法人 砧・多摩川あそび村

■ 「きぬたまあそび村」

「自分の責任で自由に遊ぶ」多摩川の自然体験遊び場です。

世田谷区の委託を受けて運営し、プレーワーカーと呼ばれるスタッフが常駐しています。

日 時：毎週 4 日 月・水・金・土 10 時 30 分～ 16 時 30 分

場 所：多摩川河川敷二子緑地せたがや水辺の楽校はらっぱ

アクセス：東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」徒歩 20 分

東急バス 砧本村行き バス停：都市大グラウンド前下車 1 分

成城学園前駅行き バス停：砧南中学校前下車 4 分

時間と場所：イベントは「きぬたまあそび村」の活動内に、時間を区切って行います。

★イベント案内

◎クリスマスリースづくり 多摩川の原っぱに繁茂しているクズのツルを使ってリースを作ります。

12/1 (土) 11:00～15:00 材料費：300 円



クリスマスリースづくり



竹でバームクーヘンを焼こう



あそぼうパン

◎竹でバームクーヘンを焼こう

地域の竹を利用して、卵 200 個を割って大きなバームクーヘンづくりをします。

12/23 (日) 11:00～15:00 材料費：200 円

◎鎌田南睦会主催「どんど焼き」で凧づくり きぬたまあそび村では、凧づくりコーナーを担当します。

1/13 (日) 10:30～ 材料費：無料

お正月飾りをお焚き上げして欲しい方は、10 時までにお持ちください。

ダイオキシンなど有害物質を発生させないよう、分別してお持ちください。

◎多摩川粥づくり ハマダイコンなど多摩川の原っぱで採取した七草粥で温まりましょう。

1/19 (土) 11:00～15:00 材料費：200 円

◎あそぼうパン 竹の棒の先に付けたパン種を、火であぶりながら焼くパンづくりです。

2/16 (土) 11:00～15:00 材料費：200 円

◎アートの日 毎月第 2 水曜日 11:00～13:00

◎体あそびの日 毎月第 1・第 3 金曜日 11:00～12:00

詳細はブログなどに UP します。

◎竹工作の日 毎月第 3 月曜日 14:00～16:00

下記にてご確認下さい。

■お問い合わせ先

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

〒157-0077 世田谷区鎌田 1-19-1-101 きぬたまの家

TEL 03-6447-9931

MAIL info@kinutama.com HP <https://kinutama.com/>

ブログ <http://asobimura.exblog.jp/>



きぬたまあそび村

NPO 法人 多摩川エコミュージアム

■お正月あそびと凧揚げ

日 時：1月14日（祝/月） 10時～13時

場 所：ニヶ領せせらぎ館

内 容：凧作りと凧揚げ、竹馬などお正月あそび、お汁粉

参加費：300円（凧代ほか）

共 催：NPO 法人多摩川エコミュージアム

かわさき水辺の楽校



■多摩川幼児サロン（リトミック） なかよしランド（参加をお待ちしています）

日 時：2019年1月15日（火） 10時30分～11時10分

2019年2月 5日（火） 10時30分～11時10分

2019年3月 5日（火） 10時30分～11時10分

ソプラノ歌手「さくらい すみえ先生」の言葉

「なかよしランド」の一番の目的は「音楽を楽しむ心」を育てること おともだちと
パパ・ママとあたたかな雰囲気の中いっしょに音楽と「なかよし」になりましょう♪

場 所：ニヶ領せせらぎ館 2階

参加費：親子1組で300円

主 催：NPO 法人多摩川エコミュージアム



■お問い合わせ先

ニヶ領せせらぎ館（にかりょうせせらぎかん）

電 話：044-900-8386 URL：http://www.seseragikan.com

住 所：神奈川県川崎市多摩区宿河原 1-5-1

開館時間：10:00～16:00 5月～8月の土・日・祝日は9:00～16:00

休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）

せたがや水辺の楽校

■あそびの日（第1日曜日 10時～12時）

集合・受付：せたがや水辺の楽校原っぱ（二子玉川緑地運動場 ピクニックひろばのとなり）

- ・冬場のあそびの日は、毎回開催内容が違います。（1月はお休みです。）

開催日：12月2日（日）

- ・冬の生きものの観察：寒い冬、原っぱで暮らしている生きものはどうしているのかな？
生きもの大好きなインタープリターと一緒に探してみよう！

開催日：2月3日（日）

- ・冬は、バードウォッチングがしやすい季節。多摩川近くにやってくる鳥を観察します。
講師は多摩川の生きものハカセ、えのきんです。

開催日：3月3日（日）

- ・かわらのおそうじのあと、マルタウグイの産卵床づくりに合流
毎年行っている、二子玉川エリアマネジメンツさんとのイベントに合流します。
二子玉川と成城学園前間の多摩川にマルタウグイの産卵床を地域みなさんでつくっています。
（開催プログラムは変更になることがあります。詳細はブログなどでご確認ください。）

■原っぱアトリエ（第3日曜日 10時半～16時）

- ・自然の中には、アートの素材がいっぱい！寒いので火を熾してなんでもヤキヤキもやります。
自然の中でのんびり過ごします。（2月は多摩川子どもシンポジウムで原っぱはお休みです。）

集合・受付：せたがや水辺の楽校原っぱ（二子玉川緑地運動場 ピクニックひろばのとなり）

開催日：12月16日（日） ・クリスマスの飾りを作ります。

開催日：1月20日（日） ・一年の計は原っぱにあり！

お外で大きな紙に書初めします。

■多摩川子どもシンポジウム in 世田谷

開催場所：東京都市大学二子玉川夢キャンパス
（二子玉川ライズ・ビジネス棟 8F）

開催日時：2月17日（日） 時間：10時～13時

- ・二子玉川周辺子ども達が、一年間の水辺での活動を発表、展示を行います。
- ・「せたがや水辺の楽校」の講師、スタッフ、子ども達で開催するシンポジウムです。

※集合、活動場所への詳しいアクセスは、NPO 法人せたがや水辺デザインネットワークホームページをご覧ください → <https://mizubedesign.org/access.html>

※事前お申込み・参加費は不要です。当日集合場所にお越しください。

※準備などの詳細は「せたがや水辺の楽校ホームページ」でご確認ください。

→ http://www.re-forest.com/setagaya_mizube/

※雨天荒天時の中止、プログラム変更などは、せたがや水辺の楽校ブログでお知らせします。

→ <https://semizube.exblog.jp/>

■お問い合わせ先

NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク

MAIL info@mizubedesign.org TEL 080-3007-5413（村上）

HP <https://mizubedesign.org>



原っぱアート



多摩川を下る!

ヘタレサイクリスト

その④

さて皆様、大都会・立川はいかがでしたか？ これより立川駅をあとにして、一路、多摩川に沿ってペダルを進めてまいります（なぜかバスガイド風に始めてみました）。



と、その前に！ 駅のホームでコレを発見。「清流」といえば、立ち寄りないわけにはまいません。「名物・おでんそば」。旨い。まずは一息。

ここから再び、川辺のサイクリングコースに戻り、軽快に漕ぎ出します。天気は上々、気分も上々。川岸の枯草の藪は野鳥のすみか。時折、キジの姿なんかも見えたりします。

国交省の日野橋観測所。すくくとそびえ建つ塔に、たのもしさを感じます。しっかり頼みますよー。



ここでは水門増設工事の真っ最中。多摩川では、こういう不断の努力が営々と続けられているのであります。



今は採り入れも終わり、静かに時を待っています。



これはまた、見事な朱塗りの鳥居。青柳稲荷神社です。ちょっとペダルを止めて、これからの行程の無事を祈ります。



晴れた空は、どこまでも高く。

あ、そうでしたね（と、少しスピードを落とす）。



水門の近くに、小さなカフェを見つけました。銀星号を止めてひと休み。



アフォガートなんて、しゃれたものを頼んでみたりして。



この親子は、自転車を止めて河原へ遊びに行ったようです。のどかにウグイスの声が聞こえてきます。

京王線・聖蹟(せいせき)桜ヶ丘駅にほど近く、見渡す限りの河原の真ん中に・・・

府中市郷土の森公園近くを走ります。春には桜が咲き誇り、バーベキューなどを楽しむ人たちが賑わいます。(イメージ)



野鳥の観察小屋がありました。早速、バードウォッチングにチャレンジ!



ちょうどマラソン大会の真っ最中。あ、給水所が!

えっ、サイクリストは貰えないの?

軽快に漕ぎ進めるうち、野球のグラウンドがいくつも現れます。がんばれ青少年諸君! ここが京王多摩川。



スリットを通して覗く多摩川の風景は、一幅の絵のよう。じっと待つこと30分! でも、一羽も現れません・・・。

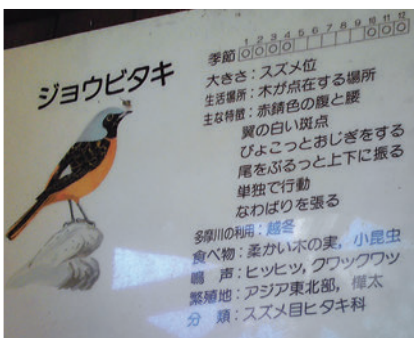
立川からはおよそ15キロ、前回より走行距離が縮んできますが、まあ今回も上出来かな、とヘタレサイクリストはひとりうなずき、電車に乗るのであります。



◆今回のおみやげ



調布名物「たづくりもなか」。臼の形をしています。館の味は3種類。ワタクシは「ゆず」がお気に入り。バラ売りもございます。



・・・思わず、なきたくなります(座布団一枚!)

次回は京王多摩川駅から、さらに下流を目指します!

(取材 2018年4月)

2019年度 助成研究募集のご案内

多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究・活動の募集

公益財団法人とうきゅう環境財団（理事長 鈴木 克久）は、1975年より、多摩川およびその流域の環境浄化の促進や自然環境の保全などに必要な調査や試験研究を毎年公募してきています。その結果、これ迄に1,252件（学術研究781件、一般研究471件、14億73百万円）の調査・試験研究費用の助成をさせていただきました。

2019年4月からの助成についても下記の通り、従来と同様、意欲的な調査や試験研究を募集致します。

応募資格

学識経験者の方はもちろん、一般の方でも下記テーマにあった研究で、意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

助成研究対象テーマ

多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究

- ①産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- ②排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
- ③多摩川およびその流域における水の利用に関する調査、試験研究
- ④多摩川を取り巻く自然環境の保全、回復に関する調査、試験研究
- ⑤シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与するもの

応募方法

当財団所定の申請書に必要事項を記入、捺印の上、財団宛ご提出ください。

（申請書用紙は、公式ウェブサイトからダウンロードできます。）手書きでの申請書はご遠慮ください。

助成の決定

2019年3月に開催予定の当財団選考委員会にて選考のうえ、理事会に諮って最終的に決定します。

応募期間 2018年9月1日（土）～2019年1月25日（金）

応募締切日 2019年1月25日（金）消印有効

応募にあたっての注意事項

- ①ご応募にあたっては、当財団の定める「調査・試験研究助成に関する基準と個人情報保護に関する規程」を必ずお読み下さい。（同規程は、公式ウェブサイトに掲載しています。）
- ②過年度に不採用となった調査や研究の再応募は受付けておりませんので、同一の調査・試験研究課題で再応募される場合は、前回のものと調査や試験研究の内容の違いがよく判るよう工夫して、申請書をご作成下さい。

助成研究の種別と条件

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の区別	環境問題改善のための調査や試験研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。	環境問題改善のための調査や試験研究で、一般の市民が、特別な学識経験を必要とせず取り組めるもの。
	(財団の公式ウェブサイトで過去の研究事例をご参照下さい。)	
1件当たりの助成金総額 の上限額	400万円	100万円
単年度の助成金上限額	200万円	100万円
研究期間	最長2ヶ年	最長2ヶ年
助成対象費目 (1) 器具備品費 (2) 消耗品費 (3) 旅費 (4) 謝金 (5) その他	<p>直接研究に使用する器具備品で1個、又は一式10万円以上の固定資産 調査や試験研究に用いる各種材料、部品、薬品等。</p> <p>調査や試験研究のための交通費、宿泊費等。</p> <p>調査や試験研究のために臨時に雇った人の謝金等。</p> <p>器機・設備などの賃借料、通信費、その他。</p>	
<p>一般研究については、従来からの調査・試験研究に加えて、シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与すると思われるものも選考の対象といたしますので、奮ってご応募下さい。</p>		

最新情報は、当財団の公式ウェブサイトでご確認下さい。

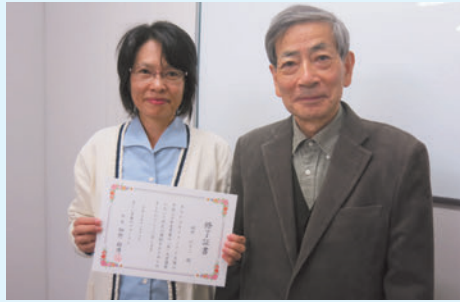
<http://www.tokyuenv.or.jp/invite/>

読者コーナー



「多摩川“水”大学講座」を無事に修了しました。
おかげさまで、一度も休むことなく楽しく学習させていただきました。
講師の小倉先生、同期生の皆様、大変お世話になりました。
教えて頂いたことを活かせるよう身近なところから「水の達人」を目指します。
今後ともよろしくお願いたします。
大人になって「修了証書」を頂いたのも新鮮で嬉しい出来事でした。

田中 のりこ



小倉先生と一緒に

11月11日はインドネシアの河川チリウン川の日です。

多摩川とチリウン川の同時清掃に参加しました。インドネシアから数名の方が来日され一緒に清掃活動。「おそうじ文化」を通じた楽しい交流会でした。インドネシアの若者が多摩川に浮かぶ大きなビニールのごみを取り去ってくれたり、一緒に写真を撮りあったり、河川敷で食事や「遊び交換」。

友人は学生さんに負けじと米の袋に入りびよんびよんゲームに参加。結果は・・・秘密。

ケがしなくて良かったです。美しい多摩川を目指して「頑張っテチリウン川」

世界が注目する多摩川って凄いな～。多摩川流域に住む者としてちょっと誇らしかったです。

川崎市在住 多摩川を歩き隊



読者コーナーでは、「財団だより多摩川」へのご意見・又は流域のイベントの紹介、多摩川でみかけたものなど楽しいおたよりや情報をお待ちしております。

公益財団法人 とうきゅう環境財団 info 宛に MAIL でお送りください。

▶メール宛先

info@tokyuenv.or.jp

事務局より

岡山での日本陸水学会の大会と、滋賀県立琵琶湖博物館とを視察してきました。水質の改善や環境の保全のために、精力的に取り組まれている研究者や活動家の方々の生の声を拝聴することができました。また、瀬戸内海や琵琶湖といった「閉鎖水域」に面している人たちが、外来生物やプラスチックごみなど、共通の課題認識を持っていることもよく分かりました。

その問題を、「多摩川」に引き直してみたら、どうなるか。そして、財団として社会に働きかけるべきことは何なのか。ひとつ腰を据えて、じっくり考えてみたいと思います。そして考えるのに疲れたら、また自転車に乗って川辺を走ってみたい・・・などと思っております。（Z）



11月27日に「第10回とうきゅう環境財団社会貢献学術賞」の贈呈式を開催しました。

本年度の受賞者は、東京大学名誉教授の高橋裕先生でした。

改めまして心よりお祝い申し上げます。

おかげさまで5月から開催されていた「多摩川“水”大学講座」も無事に終了いたしました。

今回の講座は、水のプロをはじめ川の有識者、多摩川で日々ご活躍をされている方のご参加が多く、毎回授業は、休憩も無く白熱をしていました。

最終日に修了証書を手にした受講生のみな様の笑顔が忘れられません。

小倉先生お世話になりました。生徒を代表して御礼申し上げます。（M）

- 発行日 2018年12月1日
- 編集兼発行 公益財団法人 とうきゅう環境財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14（渋谷地下鉄ビル5F）
TEL 03-3400-9142 FAX 03-3400-9141
公式ウェブサイト <http://www.tokyuenvironment.or.jp/>

2018年は多摩川改修から

100年

1918(大正7)年から
国家の一大プロジェクトとして
多摩川の改修方針を定め、
直轄事業として整備が
行われるようになりました。
今日に至るまで続けられてきた
多摩川の改修。
これからの100年も、安心・安全な
多摩川を目指していきます。

昔から好き、
これからも好き。

がた わま

改修百年



国土交通省 京浜河川事務所

多摩川改修100年イメージキャラクター
百川 多摩 (ももかわ たま)
多摩川の近くに住んでいる明朗活発な女子高生。
小さい頃から多摩川で遊んでいて、今も堤防が通学路。
自然豊かな多摩川のことが大好き。